

令和4年03月10日

技術基盤課

技術基盤グループ最新知見等に係る分類の検討（案）

1. 概要

令和4年01月20日(木)第51回技術情報検討会では、収集した最新知見である「東海地域におけるフィリピン海プレート形状の更新について」のスクリーニング結果として、対応の方向性に係る分類をvi（終了案件とする。）としたことを技術基盤グループ担当部門から報告した。

これに対し、同検討会の参加者から、分類をiv（情報収集活動を行い、十分な情報が得られてから再度判断する（必要な場合には安全研究を実施する）。）とするべきではないかという指摘があった。その理由は、今後、これと類似の案件が、内閣府や地震本部などから、発行される可能性があり、その動向を注視して欲しいという意図があった。

これに対し、担当部門からは、まず、当該情報は終了案件としているが、当該情報に関係する国及び研究機関等の動向を注視していくことは、実施予定であることを説明した。その上で、分類ivとすることに異論はない。一方、この対応の方向性については、現在公表されている情報を基に、判断するものとなっている。そのため、対応の方向性に係る判断の観点として、今後の動向も踏まえた観点を含めるべきではないか、という指摘があり、対応の方向性に係る分類について、検討することとなった。

2. 対応の方向性に係る分類について

抽出した最新知見については、下記のとおり、対応の方向性の分類「i）～ vi）」を決定することとなっている。

i）直ちに原子力規制部等関係部署に連絡及び調整し、原子力規制庁幹部に報告する。

ii）対応方針を検討し、技術情報検討会へ諮問する。

iii）技術情報検討会に情報提供及び共有する。

iv）情報収集活動を行い、十分な情報が得られてから再度判断する（必要な場合には安全研究を実施する）。

v）安全研究企画プロセスに反映する。

vi）終了案件とする

3. 対応案

分類ivの情報収集活動に係る解釈として、関係する既存の研究情報に対する情報収集活動だけではなく、今後、当該情報に関係する国及び研究機関等から発出される可能性のある研究情報に対する情報収集活動についても、含めることとする。

これにより、「東海地域におけるフィリピン海プレート形状の更新について」については、分類ivとして取り扱う。今後、当該情報に関係する国及び研究機関等の動向を注視していくこととする。

(解釈を踏まえた記載の参考)

iv) 情報収集活動^{*}を行い、十分な情報が得られてから再度判断する(必要な場合には安全研究を実施する)。

※例示を下記に示す。

- ①関係する既存の情報
- ②関係する国及び研究機関等から今後発出される可能性のある情報

以 上

(参考) 令和4年02月16日、第65回原子力規制委員会、第51回技術情報検討会の結果概要 抜粋

・個々の論文単独では、スクリーニング結果は「(vi)終了案件」になると思うが、フィリピン海プレートの上面の深度が本当に浅くなっているのかについては、引き続き情報収集すべきと思う。大きなテーマとして調査を継続していることが分かるような記載の工夫が必要ではないか。防災科研の人が著者におり、防災科研の中で今後この知見をどう扱っていくのか、情報収集をしていくべきと思う。また、防災科研の考えが分かるのであれば、説明してほしい。

【地震・津波審査部門 大浅田管理官】

・防災科研から、駿河トラフのフィリピン海プレート形状については、継続して研究を行う予定はないと聞いている。本論文は、富士川河口断層帯における重点的な調査観測の成果の一部として、駿河トラフの従来知見との差異がみつき、それをまとめたものと認識している。このような情報は、随時情報収集を行っており、新たな知見があれば対応する。【地震・津波研究部門 川内管理官】

・今後、本知見が確実になれば、文科省の地震本部や内閣府の検討に取り上げられていくと思う。そういった観点で、知見として確定しているものなのか。また、「(vi)終了案件」とした場合に、リストから完全に落ちるのか。【地震・津波審査部門 大浅田管理官】

・査読つき論文なので、ある程度信頼性はあると考えるが、今回の情報に基づいて南海トラフの被害想定を見直すといった動きにはなっていないと認識している。本論文は、リストからは落ちるが、国や研究機関の動向については、引き続きアンテナを広く張って注視していく。【地震・津波研究部門 川内管理官】

・技術情報検討会はスクリーニングを議論する場なので、引き続き注視するというのであれば、スクリーニング結果は「(vi)終了案件」ではなく、「(iv)情報収集活動を行い、十分な情報が得られてから再度判断する」にすべきではないか。【市村原子力規制部長】

・学会誌等から情報収集しているので、知見として表に出れば、引き続き必要に応じて、技術情報検討会の課題となると思う。【佐藤審議官】

・論文だけでなく、地震本部や内閣府で、この検討結果をどう扱っていくのかも、基盤グループで注視してほしい。規制部としては、スクリーニング結果は(vi)ではなく(iv)とすべきと思う。【地震・津波審査部門 大浅田管理官】

・議論を踏まえ、1次スクリーニングの結果は(iv)と再分類して、内閣府や文科省の動向も含めて情報収集を継続するというにしたい。また、分類に工夫が要るのではないかとこの点については、検討したい。【技術基盤課 遠山課長】